

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(男鹿市)

1 市の概要(人口 24,511 人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	0 園	0 園	7 か所	1 園	0 園	6 校

その他：へき地保育所 児童館 小規模保育 事業所内1 認可外

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。 (2) 市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)	
これまで取組んできた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」から見えてきた成果と課題を踏まえ、今後も県と連携しながら、就学前教育の質や専門性の更なる向上を図るための教育・保育アドバイザーによる巡回指導や地域で学び合う研修会等の継続に努め就学前教育の充実を推進する。	
主な内容(3年間)	
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 - 市に教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の課題解決に向けた継続的な支援と、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、課題解決に向けた方策を探る。 - 幼保小の接続に向けた連携を強化していくために、担当課と教育委員会との連携を確保する。 (2) 教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援 - 保育の質や専門性の向上のために、巡回指導を計画的に実施し、保育内容や園内研修の支援、ミドルリーダーや若手等の育成、保育者の面談等によるきめ細やかな支援をする。 (3) 専門性の向上のための研修の充実 - 保育の質や専門性の向上を図るため、市内就学前施設全体に共通する課題解決に向けて、県指導主事や幼保指導員、県教育・保育アドバイザーと連携し継続的に導いていく。 - 公開保育により、各園の良さや課題を明確化し、施設間の交流体制を作る。また、市内就学前施設、小学校、及び近隣市町村と地域で学び合う体制を構築する。 (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実 - 幼保小の相互理解を図るため、市教育委員会指導主事との連携のもと、市内就学前施設や市内小学校の保育者や教職員を対象にした合同研修を開催し、接続期の重要性の共有を推進する。 (5) 県との連携体制の充実 - 県の就学前教育推進協議会、県主催の研修、教育・保育アドバイザー連絡協議会、県指導主事要請訪問やこども園訪問、市に学ぶ研修等に参加し、教育・保育アドバイザーの質の向上を図る。	
年度別重点	
令和4年度	- 各就学前施設の訪問を通して、各園の課題解決に応じた保育者支援と園内研修支援を図りながらスキルアップにつなげる。 - 県主催研修会や教育・保育アドバイザー連絡協議会等に参加し、教育・保育アドバイザーの資質向上に努める。
令和5年度	キャリア別研修や園訪問を通して保育の改善と質の向上を図る。

	・小学校との円滑な接続が充実するよう、市教育委員会との連携を図る。
令和6年度	・各就学前施設の課題に応じた支援と、幼保小の円滑な接続に向けた合同研修の充実に努める。

4 令和5年度の具体

目 的

- ・教育・保育アドバイザーが市内就学前施設の巡回訪問をし保育内容や保育者の支援、園内研修や園内研修担当者への助言等を行い質の高い保育の向上を図る。また、保育補助やミドルリーダー等のキャリアに応じた研修会を開催し、専門性の向上を図る。
- ・担当課や教育・保育アドバイザーが市教育委員会や市指導主事との連携を積極的に行い、男鹿市就学前・小学校合同研修を開催し、幼保小が互いに接続期の重要性を学び、幼保小の円滑な接続の強化に努める。また、保育参観や授業参観等を通して、幼保小の職員が共に学び合う体制づくりを構築する。

実施内容及び実施状況(中間)

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・市民福祉部子育て支援課子育て支援班に教育・保育アドバイザーを配置
- ・市教育委員会との連携の実施
- ・市教育委員会指導主事との連携強化
 - 4月：幼保小の連携の方向性について
 - 6月：教育委員会、市指導主事、子育て支援課が「男鹿市就学前・小学校合同研修会」の詳細について確認
 - 7月：「男鹿市就学前施設・小学校合同研修会」開催
 - 10月：市指導主事同行の園訪問
 - ～1月：各小学校職員が保育参観及び協議参加
- ・「特別支援会議」に市指導主事、市健康推進課の臨床心理士と保健師、教育・保育アドバイザー、その他専門機関の職員が参加し、それぞれの協力体制のもと幼児理解につなげる。
- 担当課と教育委員会との連携を密にしたことにより、小学校の就学前施設の受け入れ体制がスムーズになってきている。また、特別支援会議では様々な専門機関と協力し合いながら進めていることが幼児理解と保育の質の向上や入学後のスムーズな生活につながっている。
- 部局間の連携が充実するために、互いの年間計画の中に具体的な内容を入れていく必要がある。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設を月1回は訪問し、保育参観や保育者支援、園内研修や園内研修担当者の支援を行う。
- ・公開保育や要請訪問、こども園訪問や認定こども園サポート事業等における日程や保育内容、園内研修等の事前相談や打合せを行ない、当日や当日以降の職員や園を支援する。
- ・園運営の相談等に対する支援等を行う。
- ・専門機関職員による特別支援会議参加や指導主所要請訪問の同行を通して、教育・保育アドバイザーとしての知識や技術等を学びスキルアップにつなげる。
- ・4月の園訪問は園運営や本事業に対する方向性について話し合い、3月の園訪問は園運営や本事業に対する1年間の成果と課題、要望等について聞き取りをし、次年度につなげていく。
- ・個人面談の対象者は、主に新規採用者、臨時保育士、保育補助とする。

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（男鹿市）

派遣実績 計15施設／教育保育施設全9施設 小学校6施設 154回	
回数	・幼稚園：私立1園（17回） ・保育園：市立6園（75回） ・保育所型認定こども園：市立 1園（7回） ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回） ・小学校：6校（53回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（51回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、1園（6回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（96回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（49回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（93回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（9回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（54回）） ・特別支援訪問（実績のうち、8園（11回））
理由	・各園を継続的に園訪問することにより、保育参観や振り返り、園内研修や研修担当者の振り返りを通して、保育者の専門性の向上や保育の質の向上を図る。また、事業所内保育を訪問し、保育や環境等の状況の把握に努める。 ・市内の小学校を訪問し、円滑な接続のための連携理解を進める。

○保育参観や保育の振り返りを通して、保育者が自分の保育について考えをまとめて話すことができるようになってきている。また、園内研修では、「自分のための研修」として捉えるようになってきていることが、園全体の保育の質や保育力の向上につながっている。

●保育内容や保育の振り返りの仕方に個人差がある。また、園内研修では、話し合った結果を実践に活かすことが難しい園もある。

△保育参観後の振り返りでは、「自分の保育を考える」ための時間をもつようにする。また、園内研修では、内容や進め方について一緒に考えていくことができるように、園内研修担当者の振り返りの時間をもつようにする。

（3）「専門性の向上のための研修の充実」

①キャリアアップ研修「保育補助研修会」

日時：令和5年5月10日（水）

9：30～12：00

場所：男鹿市役所若美庁舎

テーマ：「保育補助としての在り方、
子どもとの関わりについて」

講師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 白畑展子 氏

秋田県教育庁幼保推進課

教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

目的：保育の質の向上のために、就学前施設における保育補助として、子ども一人一人の発達や内面の理解や保育に携わるものとしての基本的在り方について学ぶ。

方法：講義・演習



子どもの姿から気持ちを読み取るとは…

参加者：13名

参加者の学びや感想

- ・子どもに寄り添うことで安心感、信頼感、達成感などが得られていることや、子どもや保護者と関わる場合は否定的ではなく、肯定的に捉えることが大事であることが分かった。
- ・保育の進む方向性を理解して行動しなければいけないことや、色々な思いを汲み取りながら関わらなければいけないということが分かった。
- ・保育補助として「笑顔」「安全」「寄り添い」など細やかな気配りを忘れずに子どもたちと接していきたい。

○保育補助が研修を受けることが殆どないため、今回は貴重な学びの時間になった。参加者の態度や感想から向上心をもって参加していたことが分かった。研修会後の園訪問では、学んだことを実践に活かし、子どもへの対応に変化が見られるようになった。

●園全体の質の向上を図るためには、有資格者だけでなく、保育補助も学びの場が必要である。また、普段気になっていることや悩んでいることを知ることができたため、自由に話し合える時間も必要である。

△今後も保育補助が学ぶことができる研修を計画的に実施していく。また、今後の保育補助研修では、緊張感が和らぐためのアイスブレイクや自由に話し合えるフリーストークタイムを入れるようにする。

②キャリアアップ研修「保育補助研修会」

日 時：令和5年5月22日（月）

13：30～16：00

場 所：男鹿市役所若美総合庁舎

テーマ：「保育補助としての在り方、
子どもとの関わりについて」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 白畑展子 氏

秋田県教育庁幼保推進課

教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

目 的：保育の質の向上のために、就学前施設における保育補助として、子ども一人一人の発達や内面の理解や保育に携わるものとして基本的在り方について学ぶ。

参加者：7名

参加者の学びや感想

- ・保育の心構えや子どもへの関わり方、このような場合はどうするのか等を知ることができた。また、演習では自分の考え方に片寄ってしまいがちだったが、自分とは違った様々な意見があることや、自分では気付くことがなかったことを知り学ぶことが多かった。
- ・自分の判断で決めるのではなく、近くにいる保育士との連携を密にしていけることが大事であるということが分かった。
- ・今後は様々な視点から物事を捉えていきたい。また、子どもの心に寄り添うことを心掛けていきたい。

○前回の改善策にあがったフリーストークタイムを入れたことで、話しやすい雰囲気が生まれ、自分の考えや思いを伝えることができていた。保育について学ぶ機会が殆どない保育補助であるが、一生懸命講義や演習に取組み、「保育」を学ぼうとする前向きな気持ちが感じられた。

●園内で保育補助が学ぶ場や時間を持つことの大切さを管理職等に伝えていく必要がある。

△保育補助も週案を見る、職員会議に参加する、クラス会議に参加する、子どもについて語る、保育補助会議を実施する等を管理職に伝えていく。また、今後も計画的に保育補助研修を



寄り添うとはどういうことか…

実施していく。

③キャリアアップ研修「ミドルリーダー研修」

日 時：令和5年10月25日（水）

13：30～16：00

場 所：男鹿市役所若美総合庁舎

テーマ：「ミドルリーダーの役割について」

講 師：秋田県教育庁幼保推進課

指導主事 高橋亜希子 氏

秋田県教育庁幼保推進課

教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

目 的：市内の就学前施設における教育・保育の充実と資質の向上を図るため、園運営の中核的な役割を果たすことが期待されるミドルリーダーとしてその職務を遂行する上で必要とされる役割について学ぶことを目的とする。

参加者：8名

参加者の学びや感想

- ・ミドルリーダーとして、任せることの大切さ、丁寧に伝える、教えることの重要性等、本日学んだことを少しずつ実践していきたい。
- ・園のキーパーソンという言葉が心に響き、大切な存在であることが分かった。
- ・若手の思いを聞く役割があることを知り、現場での困り感に気づくように、寄り添ったり発信したりしていきたい。橋渡し役を意識していきたい。
- ・役割を果たせるように、保育や園経営等の場面で本日の学びを活かしていきたい。本日の「カード」を意識していきたい。
- ・認める、コミュニケーションを図る等を意識して行ない、若手保育士の力になっていきたい。

○ミドルリーダーとしての役割を講義や演習を通して学ぶことができてよかったという話を園訪問で聞いた。また、園内研修等で若手を支えている場面が観られるようになりミドルリーダーとしての自覚が感じられるようになった。

●協議の様子やアンケートから一人一人が悩みながら過ごしていることが分かった。ミドルリーダー研修は今後も計画的に実施する必要がある。



ミドルリーダーの役割とは

（４） 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修の充実」

- ・4月、担当課と教育委員会が令和5年度の幼保小の方向性について確認
- ・4月、市校長会に担当課の職員と教育・保育アドバイザーが出向き、挨拶、幼保小の連携の必要性について伝達
- ・5月、市指導主事と「男鹿市就学前・小学校合同研修会」の詳細内容について協議
- ・7月、市教育委員会と担当課の協力のもと「男鹿市就学前・小学校合同研修会」を開催
- ・第1回5月頃、第2回2月頃、各小学校の幼保小連絡協議会へ参加
- ・1月、担当課と教育委員会が令和6年度の幼保小の方向性と男鹿市就学前・小学校合同研修会の開催日程等を決定
- ・1月、学校行事調整委員会参加。男鹿市就学前・小学校合同研修会の日程再確認と周知
- ・近隣同士の園や小学校の保育参観や協議、授業参観や協議への相互参加

①「男鹿市就学前・小学校合同研修」

日 時：令和5年7月27日（月）

9：30～16：00

場 所：5歳児保育提供園：認定こども園男鹿市立船川保育園

講義・協議：男鹿市民文化会館

テーマ：「育ちや学びをつなぐ幼保小の円滑な接続について」

講師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

目的：市内における就学前教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について、幼稚園・保育園、認定こども園と小学校の職員が相互理解を深めるとともに、各職員の資質向上を図る。

参加者：15名

参加者の学びや感想

- ・実際に子どもたちの活動を参観し、その活動を通して話し合ったことで、園での学びと小学校での学びの共通点や相違点について相互理解を深めることができた。子どもと保育士とのやり取りや子ども同士の関わりでは、小学校でもつながる共通するものがあると感じた。
- ・講師の話聞いて、保育と教育のつながりを理解することができたり、遊ぶ子どもたちの姿にどのような意味があるのかに気付いたりすることができた。
- ・入学までに育まれてきた力をゼロにならないように、幼保小での情報交換を大事にしていきたい。また、幼保小のつながりについて自校の職員に伝達し共通理解を図っていきたい。
- ・話し合った内容は、入学してきた子どもたちの育ちを理解し、指導に活かすことができる。また、保護者の思いや家庭環境を理解することで、保護者や子どもに安心感をもたせることができると思った。



同じ目的に向かって、友達と協力しながら



自分の気持ちに折り合いをつけている時間

【男鹿市教育委員会指導主事 佐藤智子 氏より】

※当日、その場でご感想をいただきましたので紹介します。

園の先生方が何をねらい、どのような指導・支援をしているのか、また、年長児の実態(学びの様子)はどのようなものか、小学校の先生方がより具体的に知るためのよい機会になったと思います。参観の視点について事前に丁寧に示していたこともとても良かったです。

協議会では、子どもたちの活動の中にある「10の姿」を先生方がしっかりと見取り、価値付けていました。こうして振り返り、価値付けることの積み重ねが、よりよい支援につながると思います。小学校の先生方も参加していることにより、「～は、小学校での〇〇の学習につながっている」という視点でも話し合われていました。「10の姿」や「園と学校の円滑な接続」について、先生方がより強く意識するための場になっていたと思います。

アプローチプログラムやスタートカリキュラムはあるものの、紙面だけでは見えないことがたくさんあると思います。相互参観や協議を重ねることにより、園と学校がそれぞれの学びを理解し、歩み寄っていくことができると思います。今日が、その機会となりました。市教委としても、本研修会の成果を各小学校に周知し、先生方の実践につなげられるように努めます。



子どもの育ちをつなげていくためには

相互理解は、話し合うことから(教員発表)

- 保育参観は初めてという教員が殆どであったが、「10の姿」を手がかりに参観し、その後の協議につなげたことで遊びの中で何を学んでいるのか、どのような育ちにつながっていくのか等を共有することができた。
- 当日、教育委員会の出席が参加者に与えた影響は大きかった。合同研修会後の訪問において、積極的に幼保小の連携をしていかなければいけないという前向きな気持ちが伝わってきている。
- 今後は架け橋期をつなげていくために、5歳児の参観だけでなく、小学校での様子等も参観し、「育ちの連続」や「円滑な接続」について共有していく必要がある。
- △円滑な接続の意識づけのために、今後も教育委員会と協力し合いながら幼保小の連携や合同研修の詳細について話し合う場を持つ。

②各小学校と就学前施設との連携

ア：男鹿市立船川第一小学校

令和5年	5月23日(火)	幼保小連絡協議会
令和6年	2月2日(金)	体験入学・保護者説明会
令和6年	2月28日(水)	幼保小連絡協議会

イ：男鹿市立脇本第一小学校

令和5年	6月2日(金)	幼保小連絡協議会
令和6年	2月2日(金)	体験入学・入学説明会
令和6年	2月 日	幼保小連絡協議会

ウ：男鹿市立船越小学校

令和5年	5月19日(金)	幼保小連絡協議会
令和6年	2月2日(金)	体験入学・入学説明会
令和6年	2月9日(金)	幼保小連絡協議会

エ：男鹿市立北陽小学校

令和5年	6月19日(月)	幼保小連絡協議会
令和5年	10月3日(火)	体験入学
令和6年	2月7日(水)	入学説明会・5歳児と1年生の交流会
令和6年	2月19日(月)	幼保小連絡協議会
令和6年	2月21日(水)	P T A授業参観

オ：男鹿市立払戸小学校

令和5年	4月7日(金)	入学式
令和5年	6月9日(金)	幼保小連絡協議会
令和6年	2月9日(金)	幼保小連絡協議会

カ：男鹿市立美里小学校

令和5年	4月7日(金)	入学式
------	---------	-----



引き続き小学校で育てていくために

令和5年 6月 2日（金） 幼保小連絡協議会
令和5年 11月 10日（金） 体験入学
令和6年 2月 27日（火） 保小連絡協議会

③相互職場体験（1日保育士体験・1日教諭体験）

ア：男鹿市立船川第一小学校と認定こども園男鹿市立船川保育園

- ・令和5年7月12日（水）1日小学校教諭体験
- ・令和5年8月 7日（月）1日保育士体験

イ：男鹿市立船越小学校と男鹿市立船越保育園

- ・令和5年7月12日（水）1日小学校教諭体験（中止）
- ・令和5年8月 3日（木）1日保育士体験



5歳児の思いに寄り添う教員

④研修会等をまとめた広報誌の発行

- ・男鹿市幼保小連携通信「ぶらんこ」

○幼保小の職員が話し合いを重ねる毎に、就学前教育と小学校教育の生活の流れや環境、指導方法や考え方等、それぞれの特徴の違いについての相互理解や幼児期の育ちの理解が深まってきた。

●園側は小学校からの受け身体制が強く、垣根の高さを感じる。また、小学校では積極的に幼保小の連携に取り組んでいかなければいけないという気持ちはあるが、なかなか進まない現実がある。また、保育参観や授業参観には参加するが、その後の協議への参加は難しく今後の課題である。

△幼保小の連携について共通理解できるように、月1回、教育・保育アドバイザーと市指導主事が園と小学校の現状について話し合う時間をもつ。また、今後も引き続き園訪問や小学校訪問時、各協議への参加の必要性を伝えていく。

（5）「県との連携体制の充実」

- ・県と連携しながら就学前施設や保育士等の課題解決に向けた継続的指導や支援

- ・県主催研修会への参加

- 4月26日（水）園長等運営管理協議会Ⅰ
- 5月24日（水）教頭主任等研修会Ⅰ
- 6月 7日（水）就学前教育理解推進研究協議会
- 6月30日（金）園内研修リーダー養成講座Ⅰ
- 7月 5日（水）保育実践力習得研修
- 7月14日（金）幼稚園・保育所・認定こども園中堅教諭等資質向研修Ⅱ
- 8月25日（金）園長等運営管理協議会Ⅱ
- 9月15日（金）幼稚園・保育所・認定こども園5年経験者研修Ⅱ
- 10月13日（金）園内研修リーダー養成講座Ⅱ
- 11月 2日（木）教頭・主任等研修会Ⅱ

- ・教育・保育アドバイザー連絡協議会、「市に学ぶ研修」、就学前教育推進協議会等への参加

- 4月24日（月）第1回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 6月23日（金）第2回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 8月24日（木）第3回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 10月24日（火）第4回教育・保育アドバイザー連絡協議会
- 1月23日（火）第5回教育・保育アドバイザー連絡協議会

6月 1日（木）「幼保小の架け橋プログラム」講演会：大館市主催
7月12日（水）「市に学ぶ研修」：男鹿市立船越保育園
11月 7日（火）「市に学ぶ研修」：能代市
11月21日（火）令和5年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」就学前教育推進協議会

・県教育・保育アドバイザーによる育成支援のための活用

6月14日（水）県教育・保育アドバイザー同行（男鹿市立脇本保育園）
8月22日（火）県教育・保育アドバイザー同行（男鹿市立若美南保育園）

・指導主事要請訪問や認定こども園サポート事業、その他の園訪問等に同行し、指導や助言の方法の観察

6月15日（木）こども園訪問（認定こども園男鹿市立船川保育園）
8月 8日（火）指導主事要請訪問（男鹿市立五里合保育園）
8月29日（火）指導主事要請訪問（男鹿市立北浦保育園）
9月 6日（水）指導主事要請訪問（男鹿市立脇本保育園）
10月 4日（水）指導主事要請訪問（男鹿市立玉ノ池保育園）
10月20日（金）指導主事要請訪問（男鹿市立若美南保育園）

6月27日（火）認定こども園サポート事業（男鹿市立船越保育園）
9月27日（水）認定こども園サポート事業（男鹿市立船越保育園）
12月13日（水）認定こども園サポート事業（男鹿市立船越保育園）

○県主催の研修会や指導主事への同行、県教育・保育アドバイザーによる同行等を通しての様々な学びが教育・保育アドバイザーとしてのスキルアップにつながっている。また、学んだことは園訪問において保育者や園内研修担当者に対してアドバイスをしたり、一緒に考えたりして

いく際に役立っている。

○県との連携を密にしていくことで、教育・保育アドバイザーの不安や悩みの解消につながっている。

△今後も保育の基本を学ぶために、様々な研修会への参加、指導主事への同行、「市に学ぶ研修」への参加、県教育・保育アドバイザーによる指導助言を受ける等を継続していく。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和5年度）の成果と課題

- 各就学前施設の訪問は月1回を計画している。都合によりキャンセルになる場合もあるが、その代替日を指定しての依頼があることから、保育の質を高めていこうとする前向きな気持ちを感じられる。その気持ちが職員間で自分たちの保育を意識するようになってきていることにつながっている。
- 幼保小連携通信「ぶらんこ」を今年度から各小学校を訪問し直接手渡し配布をしたことで、学校側から様々な話を聞くことができるようになった。幼保小の連携を意識するようになってきていることが感じられる。
- 新設される認定こども園に向かって、市内の就学前施設が気持ちを一つにして「認定こども園サポート事業」に取り組んでいる。市内の各園の職員が主園の船越保育園に集合し、保育参観や園内研修の協議等に参加していたが、船越保育園の保育を3回観て学ぶ以外にも、共に学び合う体制づくりとしての他園の公開保育は必要である。
- 小学校との円滑な接続については、少しずつ前進してきているものの、各小学校によって温度差が感じられる。架け橋期の充実を目指して幼保小の連携が前に進むために、まずは担当課から教育委員会への働き掛けが必要である。